

水産試験場公開デーを開催します

企画情報部 企画普及グループ

試験研究の成果等を紹介し、水産業への関心を高めていただくため、水産試験場公開デーを開催します。今年度は水試フェスをテーマに展示・企画を用意しました。ぜひ、ご来場ください！（入場無料）

1 日時：令和8年 11 月 7 日（土曜日）午前 10 時から午後 4 時まで

2 場所：愛知県水産試験場（蒲郡市三谷町若宮 97）

3 主な内容

（1）試験研究の紹介、研究施設等の見学

- ・水産試験場の試験研究成果の紹介、研究施設見学、観測機器の展示、愛知県の水産業を紹介するビデオ上映

（2）参加・体験型企画

- ・フォトブース
- ・我ら干潟探検隊～海底 2 万分の 1 マイル編～
- ・海苔すき体験
- ・ちりめんモンスターを探せ！

（3）展示、観察

- ・小さな水族館、海のいきものタッチプール
- ・魚の耳石の展示

（4）お楽しみコーナー

- ・プランクトン縁日
- ・ウナギサイズ当てクイズ
- ・サーモン射的
- ・あいちのお魚カード釣り
- ・金魚すくい（小学生以下）

（5）漁業団体によるPRと即売

- ・シラスをゲット！ビリビリ棒ゲーム
- ・「愛知のり」、「ウナギ加工品」、「絹姫サーモン加工品」等の販売

※内容は変更することがあります。



図 1 海苔すき体験



図 2 金魚すくい

移植アサリ稚貝の生残改善技術を開発しています

漁業生産研究所 栽培漁業グループ



図 3 漁場に設置した網袋

アサリは愛知県を代表する水産物であり、三河湾は長年にわたり全国トップクラスの水揚げを誇ってきました。その理由の一つは、夏から秋に豊川河口で大量に発生するアサリ稚貝を県内の干潟へ移植放流し、アサリ資源を維持してきたことです。

しかし近年は、放流した稚貝が餌不足などにより秋から冬にかけて減耗し、翌年の漁獲に至らないことが課題となっています。このため、放流したアサリの生残率を高める技術の開発が求められています。

当グループでは、その対策として、放流前の稚貝を餌となる植物プランクトンが豊富な海域で一定期間育成し、十分な栄養を蓄えさせてから放流する「中間育成技術」の開発に取り組んでいます。

昨年の試験では、伊勢湾奥部にあり植物プランクトンが豊富な名古屋港で約 2 週間中間育成した高肥満度のアサリ稚貝（中間育成区）と、水産試験場で無給餌飼育した低肥満度の稚貝（対照区）を用いました。それぞれを砂利とともに網袋へ収容し、各 5 袋を漁場に設置しました（図 3）。その後、1 カ月ごとに 1 袋ずつ回収し、生残率及び肥満度を調べました。

その結果、放流から約 5 カ月後の生残率は、中間育成区で 42%、対照区で 1% となり、大きな差が認められました（図 4）。また、肥満度は、両区とも減耗リスクが高まるとされる肥満度 12 を下回ったものの、中間育成区のアサリは試験期間を通じて対照区より高い肥満度を維持していました（図 5）。

これらの結果から、中間育成によってアサリが夏のうちに十分な栄養を蓄えたことで、餌不足の環境下でも秋から冬にかけての減耗が抑えられ、高い生残率につながったと考えられました。

今後は、中間育成したアサリ稚貝を網袋で保護せずに漁場へ直接放流した場合の生残率向上効果を検証するとともに、大量の稚貝の効率的な中間育成手法について検討し、アサリ資源の回復につながる放流技術の開発を目指します。

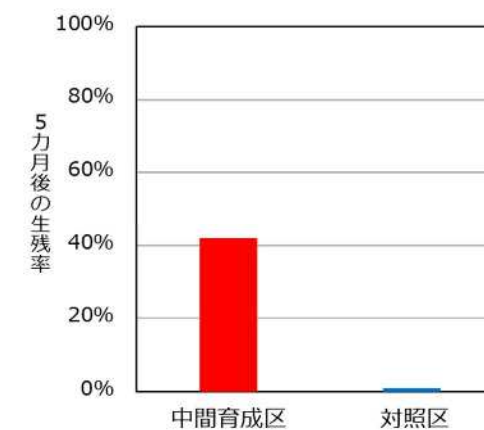


図 4 放流から 5 カ月後の生残率

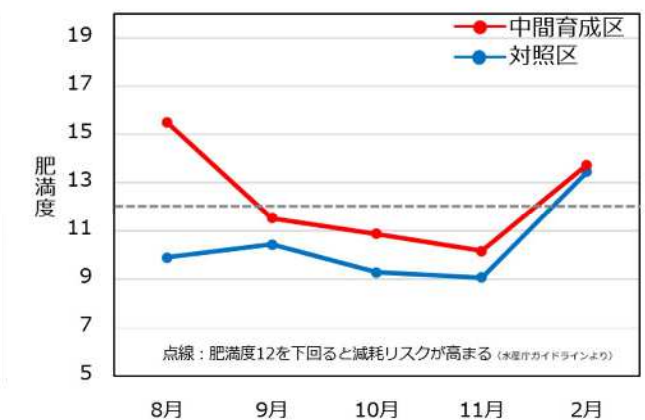


図 5 放流後の肥満度の推移